



とんち話

昔、上叢江に中村という、大変とんちのよい人がいました。又夢判断も得意でしたので、土地の人々は、困ったり、心配ごとがおこった時には、すぐに中村翁を尋ね知恵を借りるのでした。

ある朝のことでした。一人の若者が、さもうれしうに、ニコニコ顔で翁を訪ねました。そして、自慢そうに話しました。

「私は、昨夜大変よい夢を見ました。私もこれからは、好運の道が開け、いよいよ、幸福に恵まれるでしょう。」と、いいながら、昨夜見た夢の話をしました。

「私が、家の前の庭で、深い穴を掘っていましたところ、穴の底から、大変立派なコイが、二匹飛び上ってきました。」

と、若者は得々として、語るのです。これを聞いた中村翁は、若者に向っていいました。

「大変お気毒なことだが、その夢は甚だ悪い夢ですよ。お前さんは、近い中に、死ぬかもわかりません。」

若者は、飛び上って驚き、

「それは又なぜですか？コイが二匹なんです。目出たい、目出たいではありませんか。」

中村翁は、すました顔でいいました。

「よく考えて見るのだね、深い穴の中から、コイ、コイだから……。恐しいことだ。」

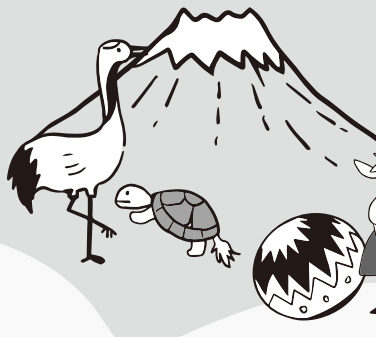
若者の顔は、見る見る青ざめて、その場に、立ちすくんでしまったということです。

(採話：後小路地区 小椋キミヨ)



定期的に発行します
保存してね！





羽根つき遊び

ひとめ ふため みよこしよめこ

いつやのむすこ 七又八五ろし

ここのへここて いったんおさめた

(採話：新山 宇田タネ子)

羽根つきうた

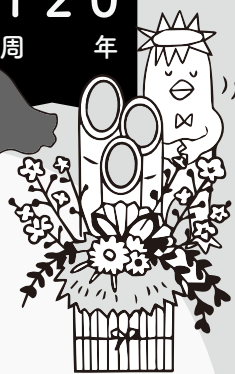
一とめ 二とめ 三やかし

四めじよ 五やのむさし

七また 八ごろ

九にきて 十まれ

(採話：川田 財津モトエ)



まりつき

ずいずいずつころばし ごまみそずい

ちやつぽにおはれて とつぴんしゃん

ぬけたらどんどこしよ

かわらのネズミが米くてチュウ

チュウ チュウ チュウ

お父さんが呼んでも

お母さんが呼んでも

いきつこ なあアしよ

(採話：新山 宇田タネ子)



お正月行事

今回は、高鍋町内に伝承されている風俗・風習から、お正月の行事について一部ご紹介いたします。

一、お供餅

ユズリ葉、ウラジロ等で餅をかざり上段にダイダイ（柑橘類）を添え前に干柿を添えてお供餅とする。（古くは潮の満ちる時刻にお供えするしきたりがあった）

二、年飾

家長から順次年もちささげもち神酒（トソ入り）を呑み雑煮で正月を祝う。

子供は自作の名刺をもって近所の友達の家へ新年のあいさつまわりをすることもたのしみとしていた。

三、若水

元旦の夜明けに井戸から水桶に水を汲とり竹筒に入れ氏神、水神、先祖の神前、釜戸等に供える。残りの若水を竹筒いっぱい入れて神棚に一年間供えておく。

老人達は子供がケガ等した折りその水を布ぎれにひたしキズをきれいにふきとり薬をつける。

四、七草がゆ

春の七草花（セリ、なづな、ごきょう、はこべ、ほとけのざ、すずな、すずしろ）

正月六日は春の七草を入れたかゆをつくる習慣があった。

正月以来アブラ気の多いオセチ料理、酒気がぬけずそのため体調がくずれがちな身体を香のおうかゆをすすり健全な体で新しい一年間の家内安全を祈り幸福な家庭でありたいと願って一家そろって食した。（ない草花はニラ、大根葉、ニンジン葉等で補った。）

家族そろって新年を祝う幸せ
そんな風景が浮かぶようです。



「たかなべ 伝・伝 Returns」の発行には、まいづるカード会のご協力を頂いています。